

令和3年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2022年6月11日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員よりのご意見
I 教育 理念 ・ 目的 ・ 育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	毎年、5年後を見据えた事業計画を作成しており、本校における組織目的には「看護および医療(リハビリテーション、医療機器安全管理、医療秘書、健康予防)の高等職業教育を通じて優秀な人材を国内・国外に輩出することにより社会に貢献する」ことをミッションとしている。それを実現するためには、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を念頭におき、それらを具現化するための「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得られる学校を目指している。更に、各学科においては「3つのポリシー」に基づき、教育目的・教育目標・教育方針を明確に立て、人材育成に必要とされる専門職業教育とキャリア教育の実践による職業人教育を行っている。また、教育の質向上を図ることを目的に、業界人材ニーズに適合するための学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会で意見交換を行い、カリキュラムの改善や学生教育指導における教科教授法などに活かし、地域社会に貢献する取り組みができています。今年度以降、更に学校および教育の質向上のための、第三者評価委員会設置に向けて計画準備中である。今年度をもって6期5か年計画が終了し、令和4年度より7期5か年計画がスタートする。現在、本校の5年後を見据えた事業計画の作成を行う。本校としても今年度は創立10年を迎え節目となる年となる。	育成人材像における組織目的(ミッション、ビジョン、コンセプト、3つのポリシー等)は教職員への周知はしているが、職員間で育成レベルに少し差があることから学生便覧にもわかりやすく明記して、浸透を図りたい。 職業人教育(職業教育+キャリア教育)の見直しを行うために、業界ニーズを的確に捉え、それを教育課程へと反映し、学生に対しての育成到達目標の設定を行っている。 コロナ禍で社会環境の変化が激しく、建学の理念である「実学教育」「国際教育」はコロナ禍で十分実施できないところもあった。オンラインの活用と産・学・官・民の連携を強化し教育活動に活かしていきたい。 5年後、10年後を見据え、現在社会的課題となっている、SDGsやDX(教育、医療等)、リカレント教育などオンライン強化と卒業生支援など教育課程の編成を検討していく。	4	特になし
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4				
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4				
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4				
II 学 校 運 営	2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4	【運営方針】 組織目的を実現するため、基本方針である「7つの視点」があり、本校としての基本数字である「5つの数字」に対して教職員一人ひとりが目的意識を持ち、目標達成できるように努めている。 5つの数字とは、①入学者数②退学者率③就職内定率④学費未納者数⑤国家資格合格率である。今年度の重点課題は①入学者数⑤国家試験合格率である。 【事業計画】 6期5か年計画の最終年である。内容としては、予算計画(5年間)、運営・実行方針(学校全体、広報、教育、就職、リスクマネジメント、コンプライアンス、働き方改革等)であり、それを定量目標と定性目標で明確にすることで業務効率や質の向上に努めた。 【運営組織】 各学科を強化することにより、学科間ならびに各部署とのつながりを深めることができる。課題としては、「働き方改革」も含め各業務分掌の見直しによる業務改善を図り、ICTやAIを活用して業務の簡素化と効率化を目指す取り組みを行っている。 【人事・給与制度】 人材要件や採用要件など給与支給に関する規定などは、就業規則の通り運用している。所属長により個々の目標設定に基づき職員評価を行い、次年度の課題を設定するなど教職員の質向上に努めている。毎年、パーソナルアンケート(教職員意識調査・働き方改革)を実施している。 【意思決定システム】 会議規程を基に各委員会や会議等を実施している。各種会議やミーティングで教職員間の情報共有を行っている。(新型コロナウイルス感染症対策でオンラインも併用して行った。) 【情報システム】 業務システム導入で、各セクションにおける情報の一元化によりデータ管理ができるようになる。サイボウズの導入では、各々のスケジュール管理を行うことにより業務の理解や教職員の行動把握が可能となる。1月よりTeamsに切替準備に入り、3月より本格的に導入をした。個人情報保護に関することは、さらにJPACの研修を通して、個人情報の取り扱いについての意識づけを行っている。	主だった課題については特に挙げられなかったため、昨年度としての課題を中心とした取り組みを継続していく。 【運営方針、事業計画】 理念に基づいた運営方針を定め、基本方針の「7つの視点」と基本数字の「5つの数字」を職員は認知し実行はできているが、4半期ごと振り返りを実施し軌道修正を行う。 【運営組織】 昨年度の課題であった業務分掌の整備ができなかったことから、今年度は各学科単位で強化し、学科業務の見直しから業務を確立させ、委員会等を通じ学科連携をしていく。教務・事務の業務分掌を作成する。作成後は、一人ひとりの業務量の適正化を図る。 【人事・給与制度】 人事考課システムは目的設定、中間評価などはなされていないため、今年度の振り返りを実施することにより、次年度の課題や目標設定を行う。また、半期ごとの振り返りを行い目標に対しての修正をする。より良い組織づくりの人材育成が重要であり、学内研修を実施予定。 【意思決定システム】 各々の日頃の業務に対して、課題解決のための問題提起や意見提案などを積極的にを行う会議やミーティングを実施し、情報共有できる仕組みづくりを行う。 【情報システム】 業務システムとして広報・就職・教務のシステムがあり、効率化できる仕組みはできているが、その効率化に個人差が生じており、個人差を少なくするためのシステム活用研修を実施する。	4	特になし
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4				
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4				
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4				
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4				
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4				
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3				

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

Ⅲ 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	<p>【目標の設定】 各学科ごとに、教育理念に基づき「3つのポリシー」である「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」を設定しており、これらに沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている。これをもとに年間教育プログラム(学年ごと入学前教育～卒業教育)に取り込むことにより、知識・技術の修得や国家試験および就職に対しての成果(目標到達)が出せるような取り組みをしている。</p> <p>【教育方法・評価等】 教育課程の編成については、国家資格系の養成施設の指定規則に基づき組み立てられているため、授業形態や教育内容、学習指導に有効的に活用している。指定規則については各学科ごとに改正があり理学療法士学科はすでにカリキュラム変更をしている。2022年度には看護学科、2023年度には臨床工学技士学科が指定規則の改正に伴いカリキュラムが変更となる。</p> <p>授業評価では、筆記試験、実技試験以外にも授業内での小テスト、復習予習を交えたレポート課題などで学生の習得度を確認できるようにしている。また、学生の到達度の向上を目的とした授業の振り返りの徹底に務めている。</p> <p>キャリア教育については、教務とキャリアセンターの連携による、キャリア形成づくりのための教育プログラムを作成し取り組んでいる。</p> <p>【成績評価・単位認定等】 学則(基準の設定等)に基づき、卒業判定会議、進級判定会議、既修得単位認定会議などを通じて成績評価や単位認定を行っている。昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、成績評価や単位認定で不利益とならないように配慮している。また、卒業課題研究発表会については、出雲市民会館にてハイブリッド形式で実施した。</p> <p>【資格・免許の取得の指導体制】 資格・免許の取得の指導体制については、各学科が対策や指導について情報共有をしながら、1年次から対策に取り組み、3年次では、できるだけ早時期から取り組みを開始している。入学予定者に対しては、プレカレッジ(オンライン)と通信教育(自宅学習)で対応し基礎固めを行った。</p> <p>【教員・教員組織】 次年度に向けては教員不足が生じている学科に対しては採用計画を立てている。</p> <p>教員の質の向上については、学園全体での教員研修への参加や各協会が実施する研修に参加し、教育力の向上に努めている。</p>	4	<p>コロナ禍で、実習形態を工夫されたと思うが、オンラインで臨床からレクチャーを受けるなどを実施してはどうか。</p>
	3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4			
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4			
	3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	4			
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4			
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3			
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3			
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3			
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4			
	3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか	3			
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3				
Ⅳ 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	<p>【就職率】 毎年、就職率100%を継続している。また最終学年だけでなく、在学中から就職フェアなど就職意識の向上に努めている。昨年度はキャリアセンターは1人体制となり3年部教員との連携により就職指導を行った。原則として就職指導は主に担任および副担任で行っている。求人状況は減少しており特に県内就職を更に強化していくためには、更に求人の新規開拓が課題となる。</p> <p>【資格・免許の取得率】 国家試験合格100%に向けた国家試験対策を実施する。 令和3年度国家資格合格率 看護100%、理学75.9%、臨工100%、言語89.0%という結果であった。昨年度よりも向上したものの不合格者に対してのフォローアップと国家試験対策強化を図る。</p> <p>【卒業生の社会的評価】 卒業生就職先に対する動向調査を実施する。また、卒業生や短大・大卒者を対象としたリカレント教育(学び直しのための生涯教育)に向けた準備も進めていく。</p>	4	<p>各職能団体に所属することも社会的評価につながるのではないかと。学生から入会しいろいろ情報をつかむことでキャリアデザインにつながるのではないかと。</p>
	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3			

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

V 学生 支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	<p>【就職等進路】 就職活動支援として、毎年実施している「就職フェア」は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施した。</p> <p>【中途退学への対応】 オリエンテーション時に、学生状況を把握するためのキャリアサポートアンケートを実施。アンケート結果による個別面談の実施。今年度も、学習支援および生活支援のための学生サポートセンターを立ち上げ学生対応を行っている。昨年度の退学率は4.0%</p> <p>【学生相談】 教員のカウンセリングスキル向上のためのカウンセリング研修実施している。基本は、サポートアンケートを活用して教員が学生面談や学生観察を実施しているが、臨床心理士による専門カウンセリングの支援も行う。</p> <p>【学生生活】 経済的支援については、日本学生支援機構の修学支援制度(給付型、減免型)を活用している。給付型は現在は15%の学生が採用されている。貸与型は53.9%の学生が採用されている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困難者に対し臨時的給付金制度も導入される。</p> <p>健康管理については、例年4月に健康診断を実施している。第1次検診は100%であった。健診後の再検査や要治療の学生に対して指導を強化し健康管理の重要性を伝えている。</p> <p>1人暮らしの学生支援活動として、学生専用(本学生専用)アパートについて学校説明会やオープンキャンパスを通じて紹介をしている。次年度に向けて学生シェアハウスの準備を進めている。</p> <p>【保護者との連携】 毎年、保護者会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度同様に今年度も電話対応とした。保護者LINEを作成。内容は現況報告や家庭の状況確認や各種案内を行う。</p> <p>【卒業生・社会人】 現在は、リカレント教育を計画(臨床工学技士専攻科設置)をしている。卒業生に対しての学び直しの場を提供するための告知は学園新聞等で行った。</p>	<p>【就職等進路】 就職フェアの時期の設定の見直しと、プログラム内容の改善。求人開拓と共に業界ガイダンス等積極的に実施。</p> <p>【中途退学への対応】 学生サポートアンケートの有効活用と学生観察の強化のため、声掛け・励まし(気づきの発見)・面談を実施する。</p> <p>【学生相談】 学生相談室(カウンセリング)の、オンライン導入による利用しやすい環境づくりとシステムの再構築を図る。</p> <p>【学生生活】 奨学生が多いと学費の分納も多くなる可能性があり、学費担当と奨学金担当の連携が必要となることと学費相談人材を増やし、学生相談できるようにしたい。</p> <p>健康管理について、2次検診の100%受診になるように取り組む。生活環境支援は、一人暮らしのための空き物件の情報提供や防犯対策を実施。</p> <p>【保護者連携】 入学前保護者説明会や入学後の保護者会において、学費支援や学校生活(学校行事など)などの理解を深めるため内容を再検討する。</p> <p>【卒業生・社会人】 同窓会活動の企画で、卒業教育(継続教育)に対しての研修会や勉強会を立ち上げる。コロナ禍における対策としてオンラインを活用した仕組みを構築する。(産学連携プログラム) 資格取得者の卒業支援についてはリカレント教育の計画・準備を継続し体制を整備する。 社会人を対象としたサポート体制(生活・学費)の充実を図る。</p>	3	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	4				
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4				
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	2				
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4				
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4				
	5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	3				
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3				
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4				
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3				
5-21-2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2					
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2					
VI 教育 環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	<p>【施設・設備等】 5年後までの修繕計画立てる。次年度に向けて大幅な修繕が見込まれるため予算計画の見直しを行っている。教育用具については、十分とは言えないため、こちらも計画立てて整備を進めて行く。</p> <p>【学外実習・インターンシップ等】 職業実践専門課程の質の向上に対し、業界連携の強化を図るため現場実習については、お互いの意見交換や情報共有により、即戦力としての人材養成に努める。</p> <p>今年度の海外研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となり中止となったため、海外提携校とのオンラインでつなぐ国内研修プログラムを実施した。</p> <p>【防災・安全管理】 年1回消防避難訓練を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学内にて映像等を活用しながら消防避難研修会を行った。内容としては防火管理者が担当し、避難方法や消火活動等であり、今後、学生自身が医療従事者となる心構え、身構え、気構えを学ぶ機会とした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、対策委員会の設置とその対応策の検討を行い、学生ならびに教職員へ感染防止や正しい知識を身に付けるなど周知を行った。また、政府や県からの情報を基に本校としての感染対策における活動基準設定を行い、常に学生・保護者・地域に対して情報発信をした。</p>	<p>【施設・設備】 次年度より施設・設備に関する修繕計画を立てており、コスト削減も含め修繕や改修については最小限に抑える。また、実習に関わる備品の入替(買換)を随時行う。</p> <p>【学外実習】 コロナ禍で学外実習が期間・時間の短縮となり、改めて実習体制の整備が必要。そのため、学内での実習やオンライン等を活用した実習プログラム開発など、その仕組みづくりを行う。今後の海外研修については、研修の意義等を踏まえ、国際的な視野向上のための内容を充実させる。</p> <p>【防災・安全管理】 防災システムおよびマニュアル化の整備。 避難の仕組みや備蓄品の確認を行い、非常時に備えた安全管理体制づくりと環境整備を行う。 緊急連絡のための、学生・教職員安否確認システムの見直しを行う。 衛生推進者の設置など職場の安全管理も取り組んでいきたい。</p>	3	特になし
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4				
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3				
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3				

令和3年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2022年6月11日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

VII 学生 の 募 集 と 受 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	<p>【学生募集活動】 広報担当者が、定期的に高校訪問を行い、教育実績情報や在校生・卒業生などの情報提供を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン型と対面型で来校者の対応を行った。また、病院側でも職業体験も行えない都合上、本校学内で医療現場が模擬体験できるプログラムを用意するなどのイベントもキャリア教育の一環として取り組んだ。また、地域住民や若年層(中・高校生)を対象としたイベントの開催を行うなど長期的な広報活動を行うことができた。</p> <p>【入学選考】 「入学試験に関する規定」則り、入学選考の可否を入学試験判定会議を開催し定めた判定基準で可否の決定を行う。個々の学習状況データをデータ化し、学力における弱点を補うためのプレカレッジがあり、それと並行して基礎科目の通信教育も行っている。内容は、高等学校での基礎科目の復習が主になる。入学後は、初年次教育(導入教育)を行っており、学力を把握するための確認テストを実施し、学生自身も弱点科目の把握を行い、教員が学習サポートをしている。また、入試制度の内容一部変更を行うことにより、前年度よりエントリー減少。入学を希望する受験者に対して「育成して入学してもらおう」仕組みをつくりの検証が必要。</p> <p>【学納金】 学費および諸費用については、ホームページや募集要項に掲載し、学校説明会等での保護者会にて説明を行っている。諸費用については、毎年精査し、余剰が大きくなるようにしている。また、経済的に学費支払いが困難な家庭に対して学費支援の説明も同時に行っている。入学辞退者には、3月31日までに辞退の連絡をいただければ返金手続きを行うこととしている。</p>	<p>【学生募集活動】 学生募集活動の早期に計画立案し、募集要項や入学案内を作成・配布を計画通り進めて行く。令和3年度はすべての学科において募集定員に満たなかったため、資料請求者・来校者の個々に合わせた情報提供を進めて行く。募集イベント→各種セミナー→入学選考→プレカレッジ→入学(初年次教育・授業・実習)の入学前より授業に連動する仕組みを確立する。(学びながら入学させる仕組み：接続教育)</p> <p>【入学選考】 今年度導入した総合型選抜の検証と改善。入学選考結果によるプレカレッジプログラムの検討</p> <p>【学納金】 学費以外の諸費用に対する、負担軽減のための金額設定(教科書設定、備品購入等)</p>	2	<p>エリアの状況をみながら、オンラインを使ったアプローチも必要ではないか。 出雲の魅力を再検討し、その魅力を打ち出していく必要があるのではないか。 短期敵、長期的な戦略を計画されてはどうか。</p>
	7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	2				
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3				
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	2				
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4				
	7-27-2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4				
VIII 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	<p>【財務基盤】 毎年、収支計算書を作成し収入・支出の確認を毎月ごとに確認を行っている。事業計画では5年後の収支計画も立て、将来の学校経営の目安となり、計画的に中長期計画を立てることができている。チェック機能としては、年3回の収支計算による修正予算を立て収支バランスを調整している。</p> <p>【予算・収支計画】 上記に記載してあるように、収支5か年計画を立てている。単年度については、年3回の収支計算書による見直しをしている。大きく左右される経費としての重点ポイントは、人件費、広報費、実習費である。収入の部では、学費分納者の学費回収がポイントとなる。</p> <p>【監査】 内部、外部の監査役の立会いの下、監査を実施し指導、助言を受け改善にあたる。</p> <p>【財務情報の公開】 ホームページにて情報公開を行っている。</p>	<p>昨年度に引き続き課題は継続する。</p> <p>【財務基盤】 収入については、学生募集と退学防止計画、効果的・効率的要素を含めた支出計画の再考をする。</p> <p>【財務分析、予算の執行管理、単年度予算と中期計画】 毎月ごとの予算計画(予算管理表)チェックの実施。 勘定項目別分析の実施。(講師料、実習費、実習材料費) 中間計画については、新規事業計画(新学科設置、付帯事業等)の策定を実施。</p>	4	<p>学校単体で考えた時の財務状況を考えると、学生募集状況を入学定員まで上げる必要があるのではないか</p>
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3				
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4				
	8-29-2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4				
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4				
	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4				

令和3年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2022年6月11日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

IX 法令等の 遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	<p>【関係法令、設置基準等の遵守】 職業実践専門課程の更新申請(3年周期で更新)を行った。また、看護学科のカリキュラム変更および臨床工学技士学科定員変更と、新学科(臨床工学技士専攻科)設置申請を行った。</p> <p>【個人情報保護】 個人情報保護に関する研修を、webを通じて毎年行っている。また、取り扱いについても慎重に取り組んでいる。</p> <p>【学校評価】 昨年度は、学校関係者評価委員会の実施が、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され8月の実施となった。委員会メンバーより貴重な意見をいただくことにより、改善点や課題が見え、今後の取り組みに対して、組織目的や運営方針の見直しをすることになる。</p> <p>更に、次年度より第三者評価委員会の設置計画も立てる。</p> <p>【教育情報の公開】 ホームページにて情報公開を行っている。</p>	<p>【関係法令、設置基準等の遵守】 特に、コロナ禍における遠隔授業や実習変更については、あらかじめ最悪な状況を予測し、速やかに変更に対する処置ができる体制と行政における対応策を考える。</p> <p>【個人情報保護】 教職員個々に対する認識を強化するための研修会を実施し周知徹底を行う。</p> <p>日常業務における個人情報の取り扱いや管理の強化。</p>	4	特になし
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4				
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4				
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4				
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4				
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4				
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4				
X 社会貢献 ・ 地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<p>【社会貢献・地域貢献】 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた地域行事への参加は、全てが中止となり実施できなくなる。また、学生に対しては感染予防のため活動を自粛するように指導を行う。</p> <p>感染予防対策の一環として職域接種の実施を行う。また、看護学科の教員は、地域の集団接種への協力も行うことができた。</p> <p>今後は、本校としての社会貢献や地域貢献活動において、産学連携の強化を図り学校発信型の企画・提案を実施していくことが課題となる。</p> <p>【ボランティア活動】 毎年、年間行事としても予定したボランティア活動も、すべて中止となる。今後は、業界や地域等の状況を確認しながら、参加する方向へと考えていきたい。地域住民を対象とした健康講座や小学生対象職業体験など、学内ボランティアは実施できた。</p>	<p>【社会貢献・地域貢献】 コロナ禍の影響によりすべてが以前のように戻らないだろうが、学校資源を有効に活用してもらうため、オンライン配信や地域住民に学校施設を積極的に利用してもらえる提案を検討し、行政(出雲市)にも発信協力を得る。</p> <p>国際交流については、海外研修プログラム以外に海外からの受け入れや語学向上のため地域での外国人交流など取り組みを検討する。</p> <p>【ボランティア活動】 ボランティアではないが、地域に対して何か還元できることを学生主体となって企画・提案ができる体制づくりを目指す。また、ボランティア活動が復活した場合は、積極的に参加できる協力体制を準備しておく。</p>	3	<p>出雲はブラジルの方が多いので、就職後はブラジルの方の対応もあるので、身近なところでコミュニティーで文化を知っておいた方がいいのではないか。</p> <p>地域の交流がよい形で継続できるようにお願いしたい。</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3				
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3				